

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4				
	●	●		●				
科目名	看護の研究				担当講師	関茂之		
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	3年次	学 期	前期	
概 要	<p>本科目では、看護研究の意義や方法について学ぶ。また、ケーススタディの基礎を学ぶことで、看護専門職としての研究的態度を養う。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と必要性、方法を理解する。 2. ケーススタディの基礎を理解する。 							

回	主 題	内 容	学習方法
1	研究とは	看護研究における意義	講 義
2	看護における研究と課題	看護における研究の重要性・看護研究の特徴	講 義
3	看護研究における倫理	倫理規定・倫理的配慮	講 義
4	看護研究方法論（1）	研究課題の選択・概念枠組みの明確化	講 義
5	看護研究方法論（2）	研究の種類と方法の選定 研究デザイン	講 義
6	研究論文の構成要素と作成の基本ルール（1）	研究の進め方・研究課題の焦点	講 義
7	研究論文の構成要素と作成の基本ルール（2）	研究の枠組み設定・方法決定	講 義
8	看護研究における文献検索（1）	文献検索の意義、検索方法、文献の読み方（クリティーク）	講義・演習
9	看護研究における文献検索（2）	文献整理の方法、検討の構成と記述	講義・演習
10	看護研究の実際 ケーススタディの作成（1）	研究テーマの絞り込み、研究枠組みの決定	講義・演習
11	看護研究の実際 ケーススタディの作成（2）	研究計画の意義と計画書の作成	講義・演習
12	看護研究の実際 ケーススタディの作成（1）	研究データの収集と分析	講義・演習
13	看護研究の実際 ケーススタディの作成（1）	研究データの収集と分析	講義・演習
14	看護研究の実際 ケーススタディの作成（2）	研究論文の考察とまとめ	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	レポート評価、客観試験
教科書	系統看護学講座 別巻「看護研究」 医学書院
参考書	「看護学生のためのケース・スタディ」 メヂカルフレンド社
備 考	ケーススタディの発表は、教科外活動として実施します。

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		●	●	●
科目名	災害看護・国際看護				担当講師	立川茂樹・佐井川まさ子・橋本順子		
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1 単位	時間	30 時間	学年	3 年次	学期	前期	
概要	<p>本科目では、準備期、災害直後、回復期にかけて支援できる看護の基礎的知識について理解する。また、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる内容を学ぶ。</p>							
到達目標	<p>1. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する。 2. 災害時の応急処置の方法を理解する。 3. 国際社会での諸外国との協力について考察する。</p>							

回	主 題	内 容	学習方法
1	災害看護の基礎知識（1）	災害看護の変遷・災害医療基礎知識	講 義
2	災害看護の基礎知識（2）	感染制御・トリアージ	講 義
3	災害時要援護者への理解とネットワーク	災害時要援護者への理解とネットワーク	講 義
4	災害時における看護の役割と活動内容（1）	災害時における初動期活動	講 義
5	災害時における看護の役割と活動内容（2）	災害時のトリアージ	演 習
6	災害時における看護の役割と活動内容（3）	応急処置・搬送技術①	講 義・演習
7	災害時における看護の役割と活動内容（4）	応急処置・搬送技術② 避難所	演 習
8	災害時における看護の役割と活動内容（5）	災害時における急性期活動	演 習
9	災害時における看護の役割と活動内容（6）	災害における亜急性期・復旧復興期活動	講 義・演習
10	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助	講 義・演習
11	国際看護学（1）	国際看護学とは	講 義
12	国際看護学（2）	多様な文化と看護	講 義
13	国際看護学（3）多様な文化と看護	多様な文化と看護	講 義
14	国際看護学（4）	海外における災害看護の課題	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 「看護の統合と実践③災害看護学・国際看護学」 医学書院
参考書	系統看護学講座 「看護学概論」 医学書院
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		●	●	●
科目名	看護管理と臨床看護の実践				担当講師	山元照美・澁川悦子		
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1 単位	時間	30 時間	学年	3 年次	学期	前期	
概要	<p>「看護の統合と実践」では、卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用できることを目標としている。そのため本科目では、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び他職種との協働の中での看護のマネジメントを学ぶ。さらに、看護実践能力の強化を図るため、臨床の場に則した多重業務や流動的環境を設定した演習を行い、看護を実践する上でのマネジメント能力を養う。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。 2. 他職種との協働の中での看護のマネジメントについて理解する。 3. 臨床の場に近い状況を設定し、複数の患者への看護のロールプレイを行い、優先すべき援助の判断やその対応を考える。 4. 統合的な看護援助技術の実践を通して、専門職としての責任感と倫理感を身につける。 							

回	主 題	内 容	学 習 法
1	看護とマネジメント	看護管理とは	講 義
2	ケアのマネジメント (1)	ケアのマネジメント・安全管理	講 義
3	ケアのマネジメント (2)	チーム医療、看護職の協働・他職種との協働	講 義
4	看護サービスのマネジメント (1)	看護サービス・組織目標達成のためのマネジメント	講 義
5	看護サービスのマネジメント (2)	協働・情報・技術のマネジメント	講義・演習
6	臨床看護実践の特徴	チーム連携の基本 多重課題に伴う危険予知トレーニング コミュニケーションエラーの防止	講義・GW
7	臨床看護実践の特徴	多重課題の特徴と対応 リーダーシップ・ファロアーシップ 看護場面における優先順位と優先順位の判断	講 義
8	複数患者の援助計画の立案と実践	複数患者の行動計画の立案と実践 看護場面の状況変化での計画修正	GW・ロールプレイ
9			
10	統合的な看護援助技術の実践 (1)	客観的臨床能力試験 (OSCE) 実施のオリエンテーション 課題の提示、スケジュール・実施方法	講 義
11	統合的な看護技術の実践 (2)	計画に基づいた統合的な看護技術の実際 客観的臨床能力試験 (OSCE) での評価実施	演習 (OSCE)
12			
13			
14			
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験 臨床客観試験
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 「看護管理」 医学書院
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー							実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4						
	●	●	●	●				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	在宅看護論実習				担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者				
分野	統合	授業方法	実習		実務経験	看護師としての実務経験				
単位数	2 単位	時 間	90 時間		学 年	3 年次	学 期	前期または後期		
概 要	保健・医療・福祉における地域活動の実際を通して、地域で生活し在宅で療養する対象とその家族への看護を実施できる基礎的知識・技術・態度を養う									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす高齢者の健康ニーズや健康課題を述べる 2. 地域で生活しながら療養する人々とその家族の健康状態、生活状態を述べる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を述べる 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携・協働を理解する 5. 在宅の療養生活で対象がその人らしい生活を送るための援助を実施する 6. 地域で暮らす高齢者の生活や暮らしを支援するための社会資源の活用を説明する 7. 在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用を説明する 8. 地域で生活する人々および在宅療養者とその家族を尊重した態度を表現する 									
時間	授 業 計 画 ・ 内 容									
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間（3日）の学内実習で構成される。 在宅で療養する対象の看護について学ぶ。									
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。									
教科書										
参考書										
備 考										

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー							実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4						
	●	●	●	●				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	統合実習				担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者				
分野	統合	授業方法	実習		実務経験	看護師としての実務経験				
単位数	2 単位	時間	90 時間		学 年	3 年次	学 期	後 期		
概 要	1. 看護のマネジメントを実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う 2. 医療チームの一員としてリーダーシップ・フォロワーシップを実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う									
到達目標	1) 組織における病棟管理・看護管理の実際を述べる 2) 複数の対象に応じたアセスメントをする 3) 複数の対象者の時間管理・優先順位を決定し、看護を実施する 4) 多重課題の中で医療安全を意識した看護を実施する 5) 医療チームの一員としての看護を実施する 6) 学習者としての責任感・倫理的態度を表現する									
時間	授 業 計 画 ・ 内 容									
90	75時間（7.5時間×10日）の臨地実習と、15時間（2日）の学内実習で構成される。 看護マネジメントとチーム医療における看護について学ぶ。									
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。									
教科書										
参考書										
備 考										